



たかまつ

練馬区立高松小学校 校報 特別号

TEL3999-3376

<http://www.takamatsu-e.nerima-ky.ed.jp/>

学校の教育目標

●自ら学ぶ子

●思いやりのある子

●たくましい子

今回の特別号では、2つの調査の結果と分析、学校としての取組をお伝えします。

1 令和3年12月実施「学校生活アンケート」(全児童対象)

及び「学校教育に関するアンケート」(保護者対象)

2 令和3年12月実施「学校経営計画に基づく自己評価」(教職員対象)

そして、上記について令和4年2月に学校評議員の方にいただいたご意見を「3 学校評議員のご意見」として掲載します。

1 「学校生活アンケート」(全児童対象) 及び「学校教育に関するアンケート」(保護者対象)

(1) 質問項目

このアンケートでは低学年は7つの、中・高学年は15の質問をしました。また、保護者の皆様には児童に行った質問に関係するものを中心とする27の質問をしました。回答率は全家庭数の66.1%(379家庭)でした。

グラフの凡例は、左から順に次の5つになっています。

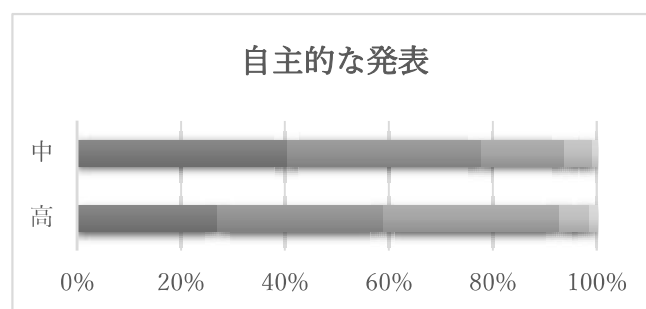
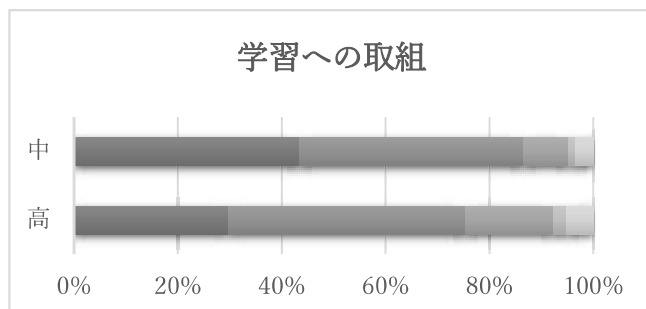
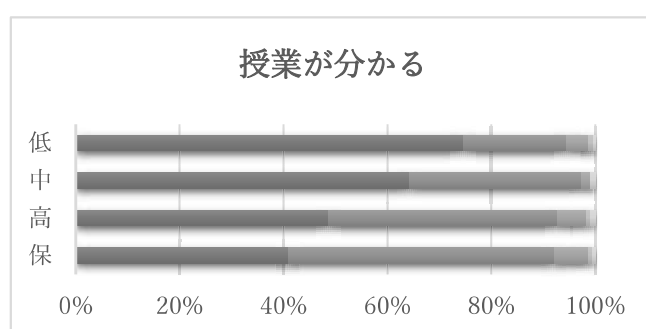
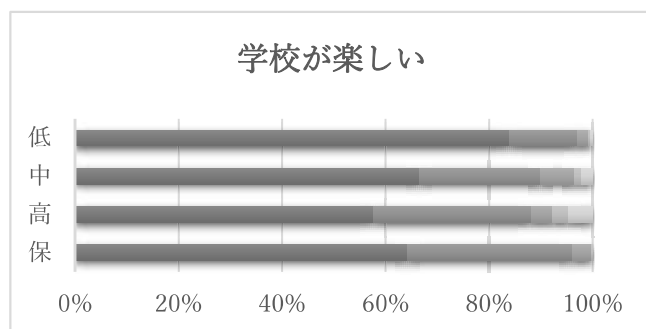
1 : よく当てはまる/そう思う ■■■■ 2 : やや当てはまる/ややそう思う ■■■

3 : あまり当てはまらない/あまりそう思わない ■■■

4 : 全く当てはまらない/全くそう思わない ■■■■ 5 : 分からない/無回答 ■■■■

以下、項目順に見ていきます。なお、記載する質問文は中高学年向けのものです。低学年は易しい文面で書かれていますが、内容は同じです。

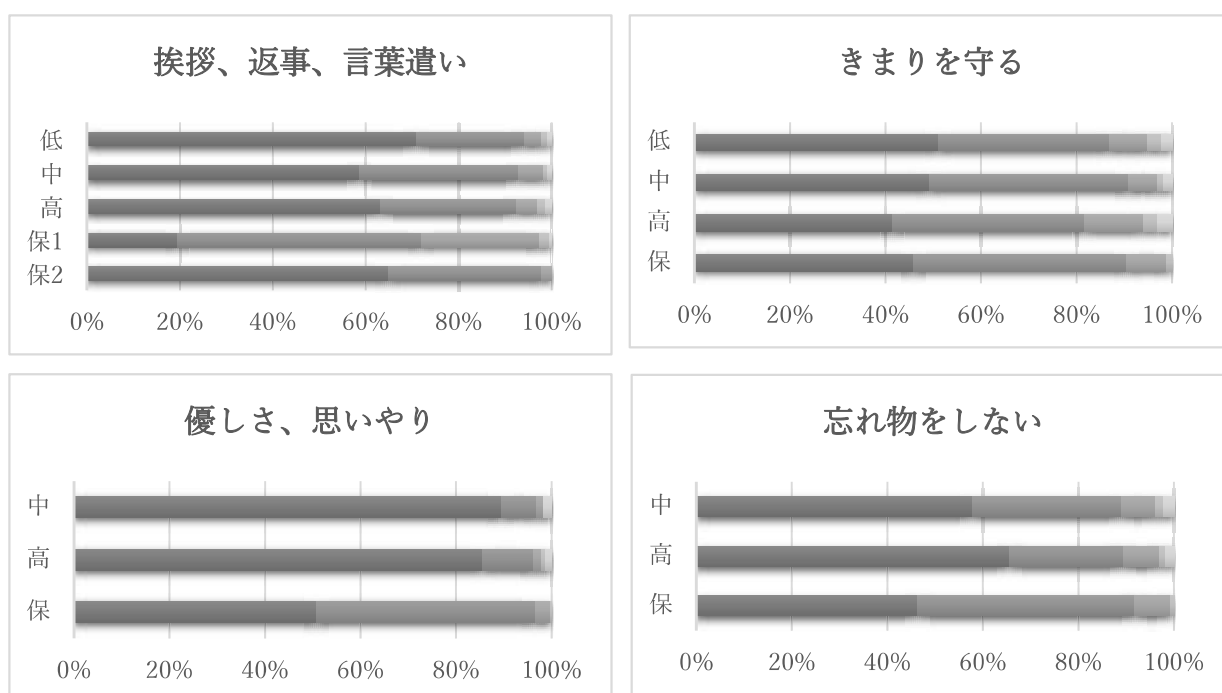
① 学校と授業に関するもの



「学校は、楽しいですか」にはどの学年の児童も高い満足度を示しました。保護者の皆様の肯定的な評価も大変高く、肯定的な評価の合計は 95.8%でした。「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」という児童もわずかながらいます。今回のアンケートはグーグルフォームで行っているため、担任は「児童の誰がどう答えたか」を把握しています。個別に対策を取っていきます。

授業については「内容はわかりましたか」ではこれまで同様、高い評価となりました。学習内容が高度になっていくにもかかわらず、低学年から高学年まで肯定的な評価がほぼ変わらないのは嬉しい驚きです。ちなみに一番評価が高いのは中学年で 97.0%が肯定的な評価でした。「分かるまで粘り強く取り組んでいますか」はそれにくらべると若干低く、「自分から意見を書いたり、発表したりしていますか」は肯定的な評価が低くなってしまいました。「学習内容は分かるけれど、子供によって自主性・積極性はさまざま」という本校の児童の様子がかがえます。子供一人一人の個性は大切にしながらも、大切なところはきちんと指導していければと考えています。

② 生活習慣に関するもの

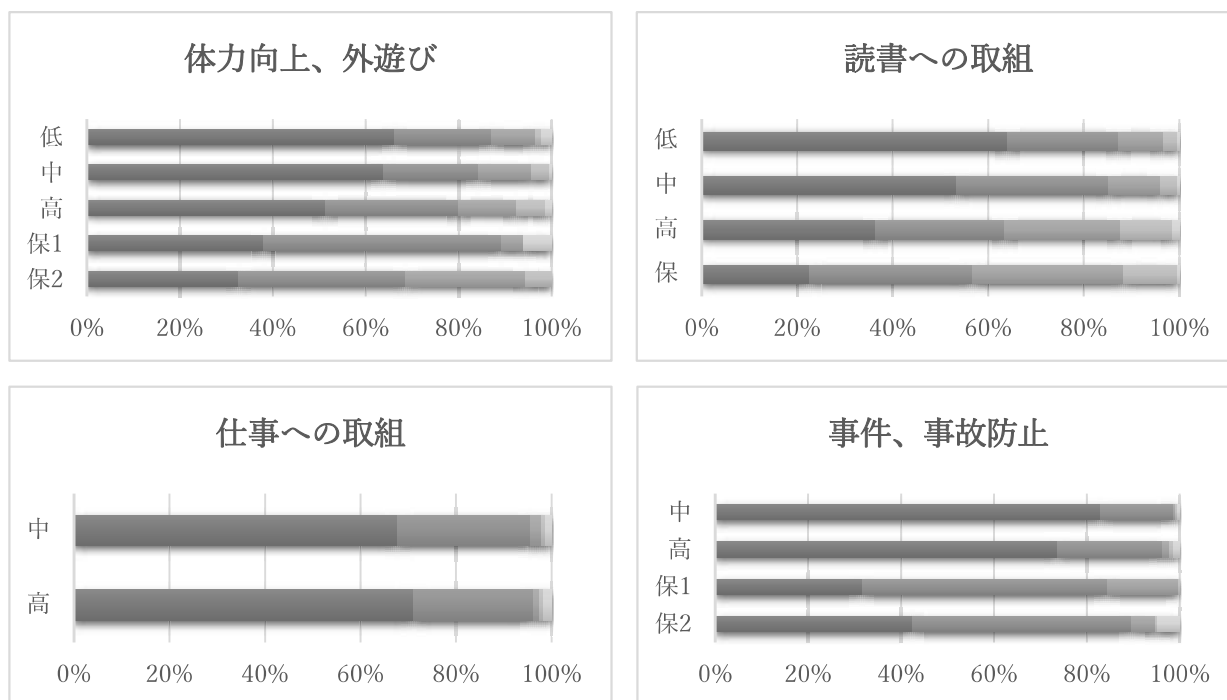


「すすんであいさつや返事、ていねいな言葉遣いをしていますか」については、この数年間で少しずつ肯定的な評価が上がっています。全校朝会で校長が「語先後礼（先に挨拶をして、後から礼をする）」の話をしてから、廊下ですれ違う子供たちがそのように挨拶をするようになりました。日々の指導の積み重ねがこの結果に結びついているのだと感じます。保護者の評価（保1「あいさつや返事、言葉遣いがきちんとしている。」保2「家族で互いにあいさつをするようにしている。」）からも、ご家庭でもご指導いただいていることが分かります。中学年の「そう思う」の割合が高学年よりも低いのは、ギャングエイジを表しているのでしょうか。

「きまりを守って生活していますか。（廊下の右側歩行、登下校時の校帽着用）」「学習用具など忘れ物をしないように気を付けていますか」についても、児童は比較的、肯定的に評価しています。これらについては、全体としてよりも子供によって違いがあるとみています。

「友達を大切に、仲良く生活していますか。」（保「お子さんは、やさしさや人を思いやる心を身に付けている。」）は、子供も保護者も肯定的な評価が高く、大変嬉しい結果となりました。実際に子供たちを見ていると、学年にかかわらず心の優しい子供が多いと感じています。

③ 特別活動等に関するもの



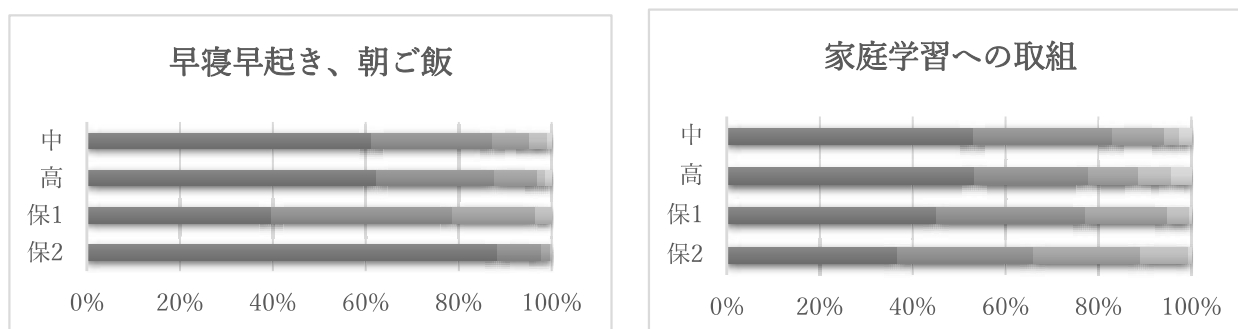
「すすんで体を動かし、外遊びをしていますか」については、ほぼ昨年同様の結果となりました。残念ながら今年度もコロナ禍の影響を強く受け、子供が歓声を上げて転がり回って遊ぶような場面を見られませんでした。一日も早い収束を願うのみです。保1「外遊びを行う」、保2「体力向上に向けた授業や教育活動の実施」については、2の肯定的な評価が昨年度比で13%ほど減りました。学校としても歯がゆく感じています。

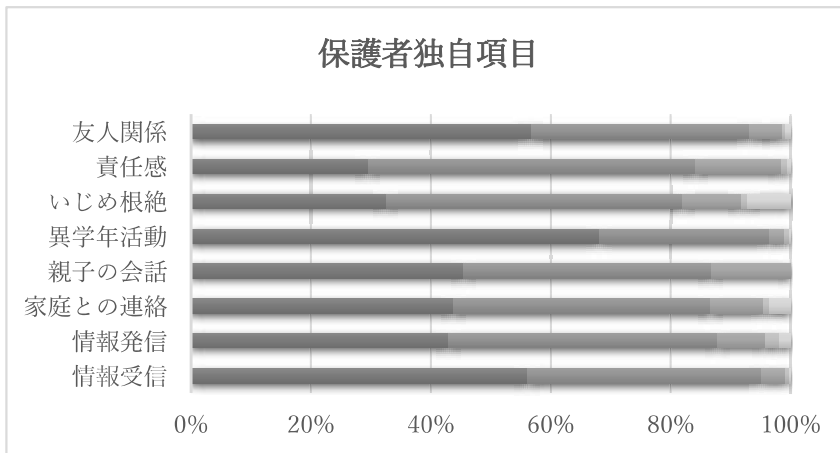
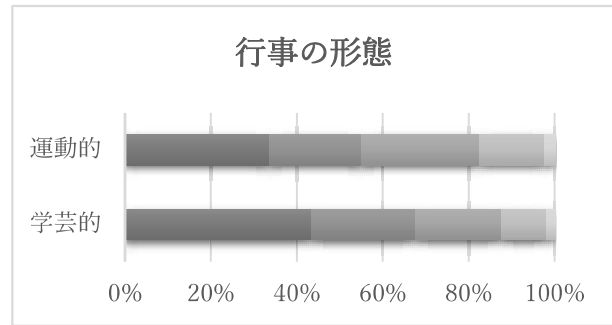
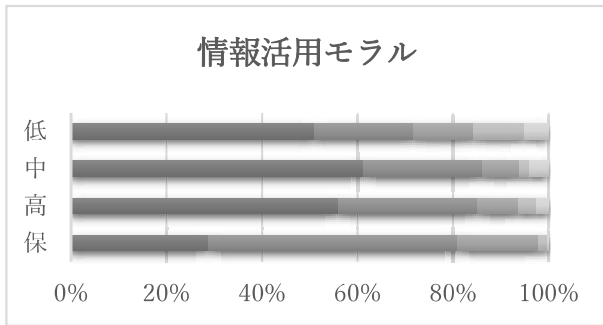
「すすんで読書をしていますか」では、各学年とも低学年が昨年同様の一方、中学年が昨年度に比べて15%、高学年は10%、それぞれ肯定的な評価が増えました。コロナ禍のため読書をせざるを得なかった部分は否めないとは思いますが、読書月間や「たかまつうちょう」（読書記録）などが児童の意欲付けになったところもあるかと思えます。

「係や委員会の仕事など最後まで責任をもって取り組んでいますか」も高い評価ですが、高学年の方がより肯定的という珍しい結果となりました。委員会などで学校全体に働きかける機会がより多いからかもしれません。

「事故や事件、災害の時の行動」については、中・高学年ともに肯定的な評価が増えました。昨年同様、実際に避難をする訓練はあまり行えませんでした。その代わりに、各担任が動画によって避難について学ぶ指導を重ねてきました。その成果だろうと考えています。保1「危険時の行動の確認」、保2「子供の安全についての学校の取組」についてもほぼ昨年同様の評価をいただきました。

④ 家庭に関するもの、保護者独自項目





次に、主にご家庭に関わる項目と、児童アンケートにはない、保護者の皆様独自の項目です。

「早寝・早起き、朝ご飯」は、児童には一つの質問で、保護者の皆様には「早寝・早起き」(保1)と「朝ご飯」(保2)に分けて聞きました。中・高学年ともに肯定的な評価は昨年同様ですが、「ややそう思う」よりも「そう思う」の割合が10%ほど増えているのは嬉しい変化です。

「家庭学習に(学年×10+10分程度)取り組む」は、中学年が昨年度より9%肯定的な評価が増えた一方、高学年は11%減ってしまいました。タブレットなども活用しながら、改善に努めます。「宿題の他に家庭学習をする」(保2)はほぼ昨年同様の結果でした。

「情報モラルについて話をする」は、今年度初めて設定した項目です。児童用タブレットを貸与したことを受け新設しました。学校でも情報モラルについては指導をしています。ですが、児童がネットに繋がる時間の大半はご家庭です。ご家庭での指導が肝になります。「周りがやっているから」などの理由で、小学生が対象外になっているゲームなどをやらせてはいないでしょうか。今一度ご確認ください。

保護者独自の項目については、すべての項目が昨年度比-3~+4%の間と、ほぼ昨年同様の結果となりました。

もう一つの新設項目は行事の実施形態についてです。昨年度来コロナ禍のために、運動会を体育科学学習発表会として、音楽会を音楽科学学習発表会として、それぞれ学年毎の入替制で実施してきました。感染症が収まった後も、このような形で行うかどうかのご意見を伺いました。賛成は、運動的行事が55%、学芸的行事が68%でした。また、本項目への関心も高く、自由意見の46%がこれについてでした。代表的なご意見をご紹介します。

○：肯定的

●：否定的

- 学年ごとの入れ替え制が良いが、子供たちには他学年の発表を見る時間を提供してあげて欲しい。
- 学年ごとだと見学する方は楽だが、子供たちの応援合戦など、大人数でまとまる機会が失われることはもったいないとも考えます。
- 混み具合や拘束時間を考えると入替制は学校が負担でなければ続けてもらいたいです。
- 体育科学学習発表会も、音楽科学学習発表会も他の学年を見る機会が減ってしまったので、コロナが収束したら、今までに近いような運動会や学芸会もまたできたら良いと思います。

- 運動会やイベントなど、以前のような形で行ってほしいです。
- コロナ収束後は以前のように、のびのびと行事をおこなっていただきたいと思っております。
入替制に賛成の方の多くは「子供にはすべて見させたい」という、いわば条件付き賛成の方が多くいらっしゃいました。また自由意見の多くは「元の形がいい」というものでした。
今回のアンケートで保護者の皆様が学校行事に強い関心をもっていらっしゃるものがあらためて分かりました。教育課程は学校が編成します。その際の議論の参考にいたします。

(2) 自由意見

保護者アンケートで寄せられたご意見をご紹介します。複数の方から寄せられた意見を中心に上げ、内容を損なわない程度に一部省略や統合をしてあります。その上で内容別に小見出しを付けました。なお、前項で取り上げた行事については除きます。

凡例は以下の通りです。

○：好評価

●：要改善

→：学校からの回答

① 教育活動全般

- コロナ禍で大変な中、先生方には学校の行事や授業など、さまざま工夫して取り組んで頂き、感謝しています。
- クラスでいじめがあると子供から聞いています。先生の知らないところで続いているらしいです。
- 子供に聞く限り、先生に対して信頼感がもてない。
→2つの意味で困りました。まず「子供に聞いた」ことだけで判断しているからです。どのようないじめがあるのか、信頼感をもたなくなった経緯は何なのか、直接伺った上で解決をしていきたいと考えています。ですが、それができません。なぜなら無記名だからです。これが次の困ったことです。学校側に具体的な改善を求めるならば、お名前をお書きください。そうでなければ生産的ではありません。ご記名の上で厳しいご意見をお寄せくださる方もいらっしゃいます。その方にはどのように改善していくか、その内容をお答えしています。

② 生活指導

- 下校時の交通マナーが悪い。車道までいっぱいに広が下校時、車道いっぱい広がっている。下校時の子供たちの様子を見ていただけると幸いです。
→あらためて指導をいたします。ただし、教員がそこまでフォローするのは難しいです。お気付きの際には、直接子供への声掛けをお願いできませんか。
- 小中学生の自殺率が過去最高と聞き、ネガティブな感情を子供にため込ませない工夫が必要と思う。
→同感です。学校でも家庭でも自己肯定感を高める取組をしたいものです。
- 相談室と学校の連携がどのようなものなのかよく分かりません。保護者へのお知らせ等でもう少し具体的に周知してほしいです。
→毎年、年度始めに「相談室だより」を発行し、お伝えしています。
- 登校班の負担が大きい。任意制にしてほしい。または個別登校でもよいのでは。
→登校班で高学年が下学年の面倒を見ることは、教育的価値があると考えます。また、「登校班や兄弟学年遊びなどの学年を越えた活動」について、「当てはまる/そう思う」(68%)、「やや当てはまる/ややそう思う」(29%)と97%の方が支持をしています。大勢が変わらない限り継続します。

③ ICT活用、その他

- 連絡やプリントをアプリやホームページ等で知らせて頂けたら助かります。
→タブレットの活用なども含め、今後の検討課題とします。

- 動画配信などで運動会や音楽会の他学年の出し物を見せてほしいと思います。
→区の規定によりできません。パスワードをかけたとしても同様です。
- 学童との連携をしてほしい。また、学童と学校の面談が立て続けにあつて困る。
→学童とは月に1回打合せを行っています。また、面談の日程については可能な限り調整していきます。

2 「学校経営計画に基づく自己評価」(教職員対象)

私たち教職員は、本校の教育活動についてどのように考えているのか。年度初めに皆様にもお示しした「学校経営計画」に基づき、自身の教育活動を振り返っています。

評価項目は「A 確かな学力の育成、B 豊かな心の育成、C 体力・健康の増進、D 信頼される学校づくり、E 人材育成・組織力の向上」からなる34の質問と、児童についての2つの質問、今年新設した情報モラルの計37の質問について、その成果を1～4の4段階評価で答えます。

それぞれの項目について、平均値より上か下かで教職員の意識を分析するとともに、保護者の皆様の回答と重なるのか、ずれがあるのかを見ていきます。

項	目	番	質問	成果
A 確かな 学力の 育成	○学習規律の確立	1	チャイム着席の徹底、目と耳で話を聞く姿勢の定着	2.96
		2	授業時数を十分確保し、指導計画に基づいた指導による学習内容の定着	3.12
	○基礎基本の定着	3	児童の家庭学習の推進	3.36
		4	教科の特性に応じた問題解決学習や、資質や能力に応じて意欲を喚起し主体的・対話的に学ぶことのできる学習の充実	3.04
	○個に応じた指導の充実	5	3年から6年算数の習熟度に応じた少人数指導の充実	3.44
	○言語活動の活性化	6	言語環境の整備、話し合い活動、書く活動の重視	3.32
	○小中一貫教育の推進	7	校区別協議会への参加と小中、幼小の連携	3.07
			Aの平均	3.19
B 豊かな 心の 育成	○人権教育、道徳教育の充実	1	「特別の教科道徳」に向けた授業改善、道徳教育全体計画の別葉の充実 道徳授業地区公開講座の改善	3.24
		2	異学年活動(兄弟学年遊び、なかよし班)の充実	3.50
		3	オリンピック・パラリンピック教育の充実	2.80
	○生活指導の充実	4	5つの「あ」の徹底(あんぜん、あいさつ、あつまり、あとしまつ、ありがとう)、正しい廊下歩行の徹底	2.96
		5	清掃活動、校内美化等の校内環境の整備、施設の安全確認	3.19
	○読書活動の充実	6	図書の間、教科指導、年3回の読書月間における読書指導の充実	3.24
	○体験的活動の充実	7	体験活動(栽培・飼育)による生命尊重、感動する心の育成	3.27
	○特別支援教育の推進	8	児童理解研修・特別支援教育研修会の実施	3.35
			Bの平均	3.19
C 体力・ 健康の 増進	○食育の推進	1	栄養士と連携を図りながら食への関心を高め食育を重視	3.41
	○体力づくりの推進	2	体育授業の充実と外遊びの励行(体育的活動、体育的行事を含む)、体力テストの結果を踏まえた取組	3.28
		3	家庭と連携し「早寝、早起き、あさごはん」生活リズムの確立	3.00
	○保健指導の充実	4	健康に関する知識・理解と健康的な生活の自主的な実践	3.23
	○安全指導の充実	5	全校体制による安全指導、セーフティ教室・交通安全教室等、外部と連携を図った安全指導の充実	3.62
	○防災教育の徹底	6	毎月の避難訓練や震災に備えたマニュアルの指導、引き渡し訓練の実施	3.54
			Cの平均	3.24
D	○いじめ、不登校、虐待の対応と予防	1	いじめの未然防止と早期発見のための職員の組織的連携の強化	3.46
	○危機管理の向上	2	安全指導、環境整備による事故の未然防止、休憩時や隙間の時間の看護の徹底	3.35

信頼される学校づくり		3	個人情報保護の徹底	3.54
	○家庭、地域との連携	4	行事アンケート、学校評価の活用、学校関係者評価委員会の充実	3.35
	○地域人材の活用	5	畑指導・たくあん漬け／クラブ活動へのプロ導入	3.74
	○関係諸機関との連携	6	近隣の高齢者施設や幼稚園、保育園等の交流活動	-
	○情報提供、HPの充実	7	土曜日学校公開・校報の地域配布・HPによる発信・各文書の充実	3.42
			Dの平均	3.48
E人材育成・組織力向上	○授業力の向上	1	PDCAサイクルによる学習指導の工夫改善	3.19
		2	校内研究の組織的な関わり方の充実	3.42
		3	週案、各種日誌の提出と情報の共有	3.69
		4	校内OJTの推進（全職員による若手教員の育成の日常化、管理職・学年による授業観察）	3.42
	○組織運営の活性化	5	学年会・専科会の確保と充実	3.50
	○サービスの厳正	6	服務研修とサービスの厳正化（体罰・個人情報流出・セクハラ等）	3.63
				Eの平均
児童は、楽しく学校に通っている				3.50
児童は、授業を楽しみにしている				3.27
学習場面におけるタブレットの活用・情報モラルについての指導を図っている。				3.35

※ D6については今年度近隣施設との交流をほとんど行えなかったため未評価

まず、この自己評価の平均が高い順で5項目並べると、次のようになりました（5、6番は同点だったため6項目）。

1	畑指導・たくあん漬け／クラブ活動へのプロ導入	3.74
2	週案、各種日誌の提出と情報の共有	3.69
3	服務研修とサービスの厳正化（体罰・個人情報流出・セクハラ等）	3.63
4	全校体制による安全指導、セーフティ教室等、外部と連携を図った安全指導の充実	3.62
5	毎月の避難訓練や震災に備えたマニュアルの指導、引き渡し訓練の実施	3.54
5	個人情報保護の徹底	3.54

本校の特色ある教育活動の一つに、4年生で行う練馬大根栽培と収穫後のたくあん漬けがあります。これは、徒歩圏内に協力してくださる農家の方と、毎年特別な糠を用意して下さる方がいらっしゃればこそ。ありがたい限りです。クラブ活動でもゲームクラブ（将棋）やパソコンクラブでそれぞれその道のプロにご指導いただいています。

それ以外では、教員は避難訓練など児童の身を守る指導に注力していることが分かりました。これは、児童の自己評価の高さに直結しています。

次に、逆に平均が低い順で並べると、次のようになりました。

1	オリンピック・パラリンピック教育の充実	2.80
2	チャイム着席の徹底、目と耳で話を聞く姿勢の定着	2.96
2	5つの「あ」（あんぜん、あいさつ、あつまり、あとしまつ、ありがとう）、廊下歩行の徹底	2.96
4	家庭と連携した「早寝、早起き、あさごはん」生活リズムの確立	3.00
5	問題解決的な学習や、意欲を喚起し主体的・対話的に学ぶことのできる学習の充実	3.04

ここ数年、保護者と教員の両者が課題と感じているのは「早寝、早起きの習慣」（今年度：保護者6位、教員4位）でした。コロナ禍による生活リズムの乱れなど、コロナ以前とは異なる生活環境となっています。私たち大人に比べて、子供は影響を受けやすいものです。安定した成長に繋がるよう、安定した生活リズムの確立にご協力ください。それ以外でも、5つの「あ」やチャイム着席など、5項目中3項目が生活指導に関わるものでした。私たちもこれらの指導に一層力を入れて参ります。

また、今年度は東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。それに関わる教育に力を入れ

たかったのですが、コロナ禍のため果たせませんでした。子供たちの人生でも滅多にないはずの機会だっただけに残念に思いました。

3 学校評議員のご意見

新型コロナウイルス感染拡大のため、今年度も学校評議員の方に直接ご意見をいただくことはできませんでした。メールやファックスでいただいたご意見をご紹介します。

- ◇ コロナという異常な状況の中で、子供たちのためにできる限り通常の学校生活を維持していこうとする学校の皆さんの努力に御礼申し上げます。早くコロナが収まって元の生活に戻りたいものですね。
- ◇ コロナの感染状況が一進一退を続け、長期でお休みをされる子供たちも出てきている中、子供たちの学習・生活に対する意欲を保つ様々な工夫をして頂いていると強く感じています。記載を頂いている通り、子供たちの生活面の指導は学校だけではなく保護者や地域で取り組む必要がある部分だと感じています。我が家にもわんぱく世代の男の子がいますが、一度、注意したからといってすべてが伝わるわけではなく、なんども繰り返し伝えていくことが大事だと思っています。
- ◇ 今回のようなアンケートを含め様々な情報も発信頂いておりますが、このような状況にもしっかりと目を通しながら連携してよりよい環境を作っていければと思います。
- ◇ 学校の努力を評価する保護者がいる一方で、足りないところばかりを指摘する保護者もいらっしゃる気がなります。子供、保護者、学校の三者が「ウィン-ウィン」の関係でいられるように、お互いが協力的なスタンスで子供の教育に取り組めることを望みます。
- ◇ このままいくと、来年は「コロナ後の小学校」しか知らない子供が半分になってしまうのですね。早くコロナが収まって、子供たちが距離を意識せずに勉強したり遊んだりできるようになってほしいです。

新型コロナウイルス感染症が収まりを見せません。現在、次年度の計画を立てていますが、感染症の状況次第では臨機応変の対応を取らざるを得ない場合が出てくると思います。そのような時でも、家庭・地域と連携を取りながら本校の教育活動を進めて参ります。

来年度も、どうぞよろしくお願い申し上げます。